

経営比較分析表（令和6年度決算）

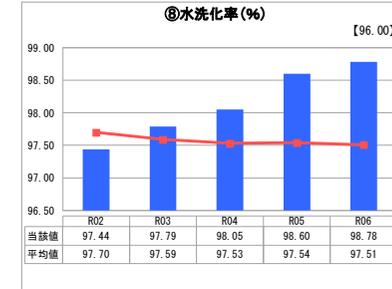
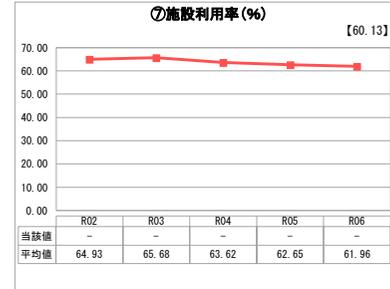
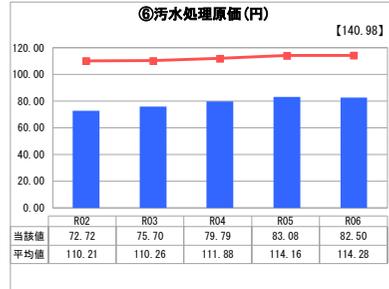
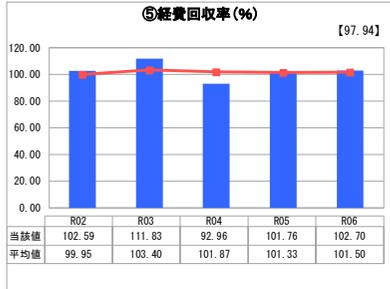
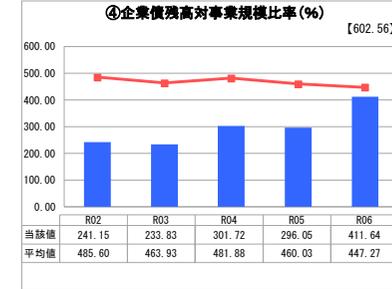
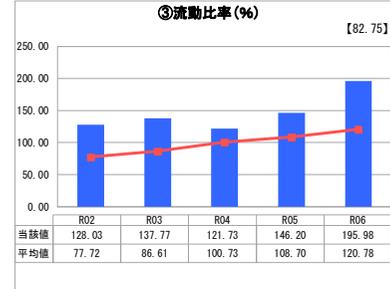
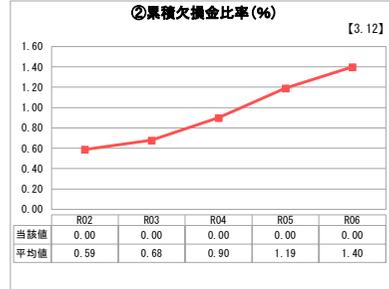
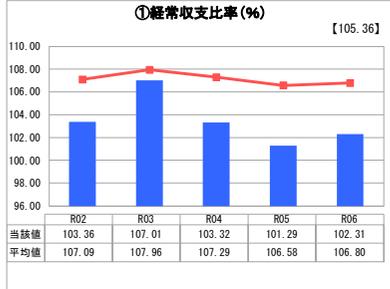
埼玉県 戸田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.68	95.83	95.13	1,023

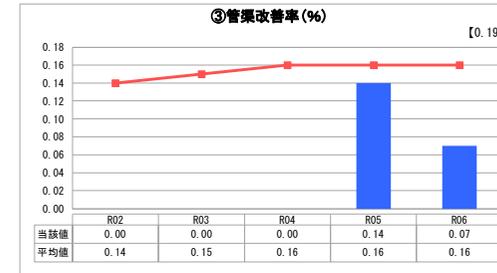
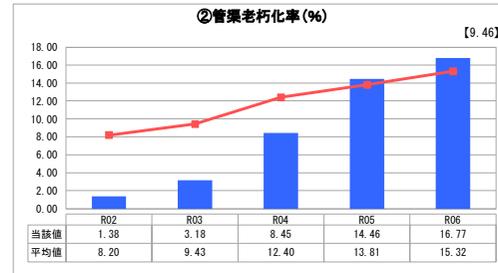
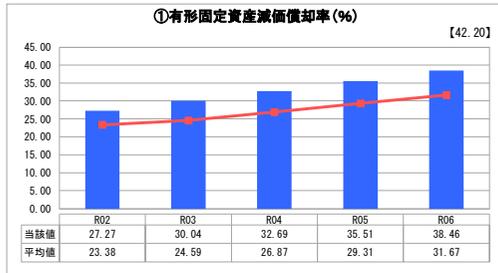
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
142,070	18.19	7,810.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
136,147	12.65	10,762.61

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
収益的収支の均衡を示す指標です。比率が100%を超えているため半年度収支は黒字となっています。

② 累積欠損金比率
欠損金は発生しておらず良好な状態にあります。

③ 流動比率
短期的な支払能力を示す指標です。短期的債務に対する支払能力は改善傾向にあり、全国平均及び類似団体と比較して高い水準にあります。引き続き健全な経営を行ってまいります。

④ 企業債残高対事業規模比率
下水道施設を建設する際の借入金残高の規模と下水道使用料収入との均衡を表す指標です。類似団体より低い水準にありますが、前年度と比較して大幅に増加したため、今後も合理的な投資による適正な債務残高の維持や、使用料収入の確保に努める必要があります。

⑤ 経費回収率
下水道使用料改定を実施した平成29年度以降、基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、使用料収入で汚水処理費を賄うことができているが、近年では低い水準となっているため課題となっています。

⑥ 汚水処理原価
本市は市域が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、他団体と比較して汚水処理原価が低い傾向です。

⑦ 施設利用率
本市は下水道処理場を保有していないため、本指標は該当しません。

⑧ 水洗化率
令和3年度より再び上昇傾向にありますが、下水道を整備する際の接続管発注により注力し、今後も100%を目指し継続促進に取り組めます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
年々上昇しており、下水道管渠やポンプ場施設等の老朽化が進行しています。老朽化した管渠の改築更新を効率的に実施するため、管渠調査による老朽化状況の把握に努めます。

② 管渠老朽化率
令和5年度より類似団体と比較して高い値になっており、今後も耐用年数を超過した管渠が増加していく見込みです。そのため、計画的な点検箇所を選定並びにDX等による効率的な点検の実施により、適切に状況を確認し、更新又は修繕を実施していく必要があります。なお、点検及び必要に応じた修繕の実施により、耐用年数を超過した管渠でも安全に使用することができます。

③ 管渠改善率
老朽管の状態を把握し、効率的かつ効果的に更新・改善を進めます。

全体総括

基本料金減免を実施した令和4年度を除き、経費回収率は100%を超え、健全経営を維持していますが、現状のままでは100%を下回る可能性があることから、改善に向けた検討が必要となります。また、令和5年度以降、耐用年数を超過した管渠が増加してきたことにより、令和6年度も管渠の更新を実施しました。今後も、未整備地区の整備と更新事業が重なることにより必要となる多額の財源を確保しつつ、計画的な点検の実施並びに効率的な修繕又は更新により、老朽化に併せた対応ができるよう進めてまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。